

大牟田市石炭産業科学館 春の企画展

官宮三池炭鉦 の時代

近代三池炭鉦は
ここから始まった！

令和5年

3月7日(火)～5月14日(日)

入場
無料

午前9時30分～午後5時

※毎週月曜休館(祝日の場合は翌平日)

大牟田市石炭産業科学館 企画展示室

大牟田市
石炭産業科学館
OMUTA COAL INDUSTRY AND SCIENCE MUSEUM

〒836-0037 福岡県大牟田市岬町6-23
TEL:0944-53-2377 FAX:0944-53-2340
URL: <http://www.sekitan-omuta.jp/>



石炭館キャラクター
クロベエ

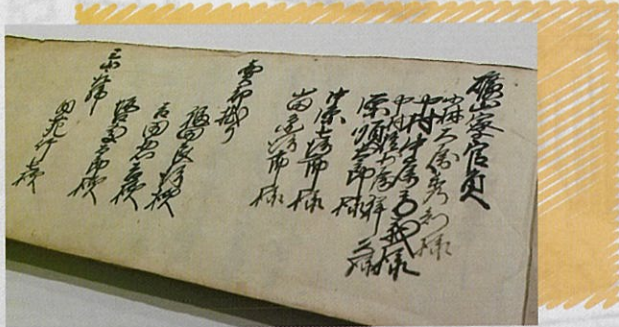
官営三池炭鉱の時代

江戸時代に始まった三池の石炭産業は、明治6年(1873)から明治政府によって経営されるようになりました。初めは西洋の技術者、後に国内で養成された技術者の手により西洋技術が導入され、模範炭鉱として成長しました。出炭量も増加し、三池の石炭は外貨獲得のため海外へ送られました。戦前の三池炭鉱の特色であった、囚人による炭鉱での労働も官営化とともに始まっています。明治22年(1889)に民営化されるまでの16年間の官営時代に、近代三池炭鉱の土台が築かれたのです。

官営化から150年の本年、石炭産業科学館は、日本最大の炭鉱「三池炭鉱」のはじまりの物語を綴ります。

ストーリー①—藩営から官営へ—

三池の石炭産業は明治政府に買収され、模範炭鉱として経営開始。近代化はここからはじまる。



近代三池炭鉱のはじまりの物語

ストーリー②—蒸気機関の導入—

イギリス人技術者ポッターの指導で大浦坑に蒸気機関導入。出炭量は大幅に増加。産業革命の風が吹き込まれる。



ストーリー③—海外へ送られた石炭—

新たな市場を求め、三池の石炭は海外へ送られることとなり、新たな港も開かれる。多くの官営事業が赤字のなか、三池炭鉱はさらなる収益をあげる。



ストーリー④—炭鉱を支えた人々—

江戸時代以来の炭鉱経験者、西洋技術を導入した技術者、採炭作業を担った囚人。このほか様々な人々に炭鉱は支えられた。



大牟田市 石炭産業科学館

〒836-0037

大牟田市岬町6-23

TEL:0944-53-2377

FAX:0944-53-2340

<http://www.sekitan-omuta.jp/>

●新大牟田駅より タクシー 約20分

●大牟田駅西口より

徒歩 20分

タクシー 8分

バス イオンモール行 終点下車 徒歩8分

帝京大学福岡キャンパス行 終点下車 徒歩3分

レンタル自転車 10分

※レンタル自転車は駅東口前の観光プラザおよび、駅西口西鉄大牟田駅で取り扱っています

●九州自動車道 南関ICより 自動車で約25分

●長洲港より 自動車で約30分

●無料駐車場あり(30台)

大牟田市 石炭産業 科学館

